

浜の活力再生広域プラン

1 広域水産業再生委員会

組織名	東国東広域水産業再生委員会
代表者氏名	会長 末 廣 康 徳

広域再生委員会の 構成員	東国東地域水産業再生委員会、 （大分県漁業協同組合国見支店、くにさき支店、武蔵支店、安岐支店、 国東市） くにさき漁業合同会社、大分県
オブザーバー	国東市特産水産物銘柄化推進協議会 国東市世界農業遺産プロジェクトチーム ヤンマー（株）、JETRO大分（輸出関係）

対象となる地域の 範囲及び漁業の種 類	大分県国東市		
	地区	正組合員数	漁業種類
	国見地区	55人	底引き漁業、船曳き漁業、刺網漁業、 小型定置網漁業、潜水漁業、一本釣 漁業、延縄漁業、採藻、海面養殖
	国東地区	76人	
	武蔵地区	33人	
	安岐地区	30人	
計	194人		

## 2 地域の現状

### (1) 地域の水産業を取り巻く現状等

平成 28 年 3 月に 4 町の合併により誕生した国東市は、大分県の北東部国東半島の東部に位置し、瀬戸内海の伊予灘に面している。

国東市の漁業は、刺網漁業・釣漁業・延縄漁業を中心に営まれている。平成 25 年度の漁業種別の漁獲量では、釣漁業が最も多く 373 t、次いで刺網漁業 305 t、底曳き漁業 180 t の順となっており、全体で 1,781 t を生産している。また、平成 25 年度の漁船総隻数は 3 t 未満クラス主体の 537 隻となっている。

近年は、魚価の低迷や主要漁獲物であるタチウオ、タコ等の漁獲量が激減したことに加え、燃油の高騰により漁業コストが上昇し、漁家経営を圧迫している。

また、干潟域については、アサリ等の漁獲量の減少により低利用となっており、干潟域の有効活用が課題であった。

そこで、平成 27 年度から干潟域を活用したカキ養殖を新たに開始したところである。コンセプトを生食に特化した商品とし、ブランド名を「くにさき O Y S T E R」（平成 27 年 7 月商標登録）として、首都圏等のオイスターバーを中心に平成 27 年度から販売を開始した。

### (2) その他の関連する事項

国東市は、半島振興法に基づく指定地域にあり、三方を海に囲まれ、平地に恵まれず、幹線交通体系から離れているなどの制約の下にあることから、産業基盤や生活環境の整備等について他の地域に比較して低位にあり、また、人口減少、高齢化が進行するなど厳しい状況にある。

人口については、平成 18 年 3 月に 4 町（国見町・国東町・武蔵町・安岐町）が合併し、約 34,700 人となったが、平成 28 年 3 月末には約 29,600 人まで減少、日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」にあがるなど、これらへの対策が急務となっている。

基幹産業は第 1 次産業であり、水産業以外では、瀬戸内海式気候であることから、少雨温暖な気候を生かした柑橘栽培が盛んであったが、現在これに代りオリーブやキウイ栽培に力を入れ取り組んでいる。また、平成 25 年には世界農業遺産に認定されるなど、特色ある農林水産業が行われている地域でもある。

他には、テクノポリス構想により昭和 50 年代後半から先端技術産業が大分空港周辺に集積し操業を開始した。

観光業については、国東地域は神仏習合が色濃い六郷満山文化が栄え、これら神社仏閣など観光資源が多くあり、年間を通じてこれらを活かした観光が主である。

交通アクセスについては、大分空港が立地していることから、2002 年開催の日韓サッカーワールドカップを契機に自動車専用道路の整備が始まり、2016 年東九州自動車道の全線開通により北九州や宮崎方面からのアクセスは良くなり、「陸の孤島」と呼ばれる状況は徐々に解消されつつある。今後は交流人口の増加を期待している。

### 3 競争力強化の取組方針

#### (1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

国東の水産業を取り巻く厳しい現状等をふまえ、「浜の活力再生プラン」(26水港第2643号)における機能再編、競争力強化の取組みの更なる強化を図り、地域の活性化に資するため、各地区が一体的になって以下の4本の柱からなる取組みを実施する。

##### 【1. 地域資源管理とその有効活用】

浜の活力再生プランに則り、種苗放流、資源管理、藻場の保全等の取組みについて、漁協各支店の広域連携により一層高度化するとともに、新たに「抱卵たこ壺の放流」や「ヒジキ養殖の試験」等に取り組むことで、機能再編・地域活性化を推進する。

◎漁協各支店が広域的に連携し、新たに「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行い、その成果を共有することで、タコの資源管理を一層高度化する。

◎漁協各支店が広域的に連携し、新たにヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、地域資源管理とその有効活用を推進する。

##### 【2. 流通改善】

漁協各支店が広域的に連携し、県外市場への出荷体制を見直し、漁協への集出荷体制を強化することで、機能再編・地域活性化を推進する。

◎漁協各支店が広域的に連携し、県外市場への出荷体制を見直す(運搬トラックの共同利用による集約化等)ことで、運搬コスト(手数料)を下げ、漁業者の所得向上を図るとともに、漁協への集出荷体制を強化する。

##### 【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】

浜の活力再生プランにおける生食用養殖カキ及びタコのブランド化・販路拡大の取組みについて、漁協各支店、国東市商工会等の広域的な連携により、一層のブランド化・販路拡大を推進するとともに、タコにあっては、新たに製氷施設等を整備し、高鮮度化による付加価値向上を図ることで、漁協への集出荷体制を強化し、機能再編・地域活性化を推進する。

(生食用養殖カキ「くにさきOYSTER」)

◎平成27年度から養殖を開始したため、市内においても浸透していない状況にある。

このため、「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会(H28.3月設立)」との広域的連携(販路拡大等)、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。

◎新たに市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー(養殖体験+カキ料理)」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。

(くにさき姫だこ)

◎水産業競争力強化緊急整備事業等を活用し、製氷施設の整備及び冷凍施設の機能強化等を行うことで、タコの最盛期である夏場において高鮮度化による付加価値向上を図りつつ、漁協への集出荷体制を強化する。

◎ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することで、タコのブランド化を推進するとともに、六次産業化による漁業収益の向上を図る。

##### 【4. 輸出促進】

養殖カキ(くにさきOYSTER)について、漁協各支店、国東市商工会等が広域的に連携し、高品質・安定生産の促進を図りつつ、更なるブランド化・販路拡大を推進し、さらに生食を主流とする国への輸出に取り組むことで、機能再編・地域活性化を推進する。

◎生食用に特化した「養殖殻付生ガキ」をコンセプトに「くにさきOYSTER」の生産に取り組んでおり、国内はもとより生食文化を主流とする近隣諸国への輸出を開始する(香港、マカオ等)。

◎EU基準を適用している輸出先国も少なくないことから、NSSPに準拠した海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）の研究や、EU-HACCPの認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。

## （２）中核的担い手の育成に関する基本方針

漁協各支店等が一体的な連携のもと以下の取組を行うことで、新規就業者及び中核的の担い手の確保・育成を推進する。

### 【共通（漁船漁業・養殖業）】

◎水産業が労働対価に見合う魅力ある産業でなければ新規就業者は見込めない。このため、（１）により資源管理型漁業や養殖業を一層推進するとともに、省エネ機器や漁船導入等による収入向上・コスト削減に向けた取組を行い、魅力ある漁家経営体を育成する。

◎新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより、新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、地域漁業の中核となる担い手の育成強化を図る。

### 【カキ養殖（くにさきOYSTER）】

◎地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつなげるよう支援する。

◎カキ養殖に取り組む「モデル漁家」を中核的漁業者とし、養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資するとともに、新規にカキ養殖を希望する漁家（新規就業者を含む）の相談や指導者としての役割を担う等、養殖拡大に向けての人材確保と人づくりを行う。

※「モデル漁家」とは

過去、国東地域はカキ養殖の経験がなく漁業者にとっては漁業種別の大きな転換となることから、養殖に取り組んだ場合の成果や課題を他の漁業者や関係者に示す役割を担う。

### 【上記記号】

◎：新しく行う取組事項

○：前年度から継続して行う取組事項

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法、大分県漁業調整規則、地区毎に策定された資源管理計画（方針）等の順守を徹底する。  
また、藻場及び干潟の保全活動・種苗放流等を積極的に実施する。

○大分県漁業調整規則

＜マダコ＞ 体重 200 g 以下の採捕、保持、販売の禁止

○大分海区漁業調整委員会指示

＜マコガレイ（第 2 種特定海洋生物資源）＞ 全長 15cm 以下の採捕禁止

○自主規制（タチウオ漁業者検討会）

毎月第 2 土曜日の休漁

＜タチウオ＞毎月第 2 土曜日の休漁（7,8 月は毎週土曜日の休漁）

5～6 月の旧暦 15 日前後の日曜日から 6 日間（産卵期）の休漁

禁漁区の設定（大分県タチウオ資源管理に関する方針）

(4) 具体的な取組内容 (年度ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成28年度)

取組内容	<p><b>【1. 地域資源管理とその有効活用】</b></p> <p>◎新たに「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行うことを検討する。</p> <p>◎漁協各支店が広域的に連携し、新たにヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、今後の地域資源管理とその有効活用のあり方を検討する。【⑦】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>◎漁協各支店が広域的に連携し、県外市場への出荷体制を見直す（運搬トラックの共同利用による集約化等）ことで、運搬コスト（手数料）を下げ、漁業者の所得向上を図るとともに、漁協への集出荷体制を強化することを検討する。</p> <p><b>【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】</b> (生食用養殖カキ「くにさきOYSTER」)</p> <p>◎「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会」との広域的連携（販路拡大等）、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。</p> <p>◎新たに市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー（養殖体験＋カキ料理）」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。</p> <p>(くにさき姫だこ)</p> <p>◎タコの最盛期である夏場において、高鮮度化による付加価値向上を図るため、水産業競争力強化緊急整備事業等を活用した製氷施設の整備等について検討する。</p> <p>◎ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することを検討する。</p> <p><b>【4. 輸出促進】</b></p> <p>◎生食用に特化した「高品質養殖殻付生ガキ」をコンセプトにした「くにさきOYSTER」について、生食文化を主流とする近隣諸国への輸出の試行を開始する。</p> <p>◎本委員会の会員が、「NSSPに準拠した貝類衛生プログラム構築プロジェクト」（国東プロジェクト）に参画する。</p> <p>この「国東プロジェクト」において、NSSPに準拠した海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）の研究や、EU-HACCPの認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。【⑩】</p> <p><b>【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】</b> (共通（漁船漁業・養殖業）)</p> <p>◎水産業が労働対価に見合う魅力ある産業でなければ新規就業者は見込めない。このため、競争力強化型機器等導入事業、広域浜プラン実証調査事業、浜の担い手漁船リース事業等により、収入向上・コスト削減の取組みを推進する。【②、③、⑤、⑥】</p> <p>◎新規就業支援として、国東市が実施している「空き家バンク」や「マイホーム新築・購入応援奨励金」制度等を活用し、移住定住をサポートする。【⑪】</p> <p>◎新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、将来地域漁業</p>
------	--

	<p>の中核となる担い手の育成強化を図る。【⑧】</p> <p>(カキ養殖 (くにさきOYSTER))</p> <p>◎地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつながるよう支援する。【⑩】</p> <p>◎「モデル漁家」に対して養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資する取組を進める。【③、⑤、⑥】</p>
活用する支援措置等	<p>① 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p> <p>② 広域浜プラン緊急対策事業 (効率的な操業体制の確立支援)</p> <p>③ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>④ 水産業競争力強化施設整備事業</p> <p>⑤ 浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑥ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑦ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑧ 青年就業準備給付金</p> <p>⑨ 水産資源管理実践支援事業 (県) 及び浅海増殖事業 (市)</p> <p>⑩ カキ養殖海域水質等モニタリング事業 (市)</p> <p>⑪ 地方創生関連事業</p>

【上記記号】

◎：新しく行う取り組み事項

○：前年度から継続して行う取り組み事項

<p>取組内容</p>	<p><b>【1. 地域資源管理とその有効活用】</b></p> <p>◎漁協各支店が広域的に連携し、新たに「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行い、その成果を共有することで、タコの資源管理を一層高度化する。【①】</p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、ヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、今後の地域資源管理とその有効活用のあり方を検討する。【①、⑦】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>◎漁協各支店が広域的に連携し、県外市場への出荷体制を見直す（運搬トラックの共同利用による集約化等）ことで、運搬コスト（手数料）を下げ、漁業者の所得向上を図るとともに、漁協への集出荷体制を強化する。</p> <p><b>【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】</b> （生食用養殖かき「くにさきOYSTER」）</p> <p>○引き続き、「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会」との広域的連携（販路拡大等）、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。【①】</p> <p>○引き続き、市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー（養殖体験＋カキ料理）」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。【①】</p> <p>（くにさき姫だこ）</p> <p>◎水産業競争力強化緊急整備事業等を活用し、製氷施設の整備を行うことで、タコの最盛期である夏場において高鮮度化による付加価値向上を図りつつ、漁協への集出荷体制を強化する。【④】</p> <p>○引き続き、ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することを検討する。【①】</p> <p><b>【4. 輸出促進】</b></p> <p>◎「くにさきOYSTER」の近隣諸国への輸出を本格的に開始する。【①】</p> <p>○引き続き、「国東プロジェクト」において、海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）にの研究や、E U－HACCP の認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。【①、⑩】</p> <p><b>【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】</b> （共通（漁船漁業・養殖業））</p> <p>○引き続き、競争力強化型機器等導入事業、広域浜プラン実証調査事業、浜の担い手漁船リース事業等により、収入向上・コスト削減の取組を推進する。【②、③、⑤、⑥】</p> <p>○引き続き、新規就業支援として、国東市が実施している「空き家バンク」や「マイホーム新築・購入応援奨励金」制度等を活用し、移住定住をサポートする。【⑩】</p> <p>○引き続き、新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、将来地域漁業の中核となる担い手の育成強化を図る。【⑧】</p>
-------------	---



	<p>(カキ養殖 (くにさきOYSTER))</p> <p>○引き続き、地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつながるよう支援する。【⑩】</p> <p>○引き続き、「モデル漁家」に対して養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資する取組を進める。【①、③、⑤、⑥】</p>
活用する支援措置等	<p>① 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p> <p>② 広域浜プラン緊急対策事業 (効率的な操業体制の確立支援)</p> <p>③ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>④ 水産業競争力強化施設整備事業</p> <p>⑤ 浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑥ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑦ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑧ 青年就業準備給付金</p> <p>⑨ 水産資源管理実践支援事業 (県) 及び浅海増殖事業 (市)</p> <p>⑩ カキ養殖海域水質等モニタリング事業 (市)</p> <p>⑪ 地方創生関連事業</p>

【上記記号】

◎ : 新しく行う取り組み事項

○ : 前年度から継続して行う取り組み事項

<p>取組内容</p>	<p><b>【1. 地域資源管理とその有効活用】</b></p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行い、その成果を共有することで、タコの資源管理を一層高度化する。【①】</p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、ヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、今後の地域資源管理とその有効活用のあり方を検討する。【①、⑦】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>○平成29年度から開始した県外市場への出荷体制を継続するとともに、漁協への集出荷体制のあり方を検証する。【①】</p> <p><b>【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】</b> (生食用養殖かき「くにさきOYSTER」)</p> <p>○引き続き、「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会」との広域的連携（販路拡大等）、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。【①】</p> <p>○引き続き、市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー（養殖体験＋カキ料理）」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。【①】</p> <p>(くにさき姫だこ)</p> <p>◎タコの最盛期である夏場において、高鮮度化による一層の付加価値向上を図るため、水産業競争力強化緊急整備事業等を活用した冷凍施設の機能強化等について検討する。【①、④】</p> <p>◎ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することで、タコのブランド化を推進するとともに、六次産業化による漁業収益の向上を図る。【①】</p> <p><b>【4. 輸出促進】</b></p> <p>○引き続き、「くにさきOYSTER」の近隣諸国へ輸出を行う。【①】</p> <p>○引き続き、「国東プロジェクト」において、海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）にの研究や、E U－HACCP の認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。【①、⑩】</p> <p><b>【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】</b> (共通（漁船漁業・養殖業）)</p> <p>○引き続き、競争力強化型機器等導入事業、広域浜プラン実証調査事業、浜の担い手漁船リース事業等により、収入向上・コスト削減の取組を推進する。【②、③、⑤、⑥】</p> <p>○引き続き、新規就業支援として、国東市が実施している「空き家バンク」や「マイホーム新築・購入応援奨励金」制度等を活用し、移住定住をサポートする。【⑪】</p> <p>○引き続き、新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、将来地域漁業の中核となる担い手の育成強化を図る。【⑧】</p>
-------------	--

	<p>(カキ養殖 (くにさきOYSTER))</p> <p>○引き続き、地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつながるよう支援する。【⑩】</p> <p>○引き続き、「モデル漁家」に対して養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資する取組を進める。【①、③、⑤、⑥】</p>
活用する支援措置等	<p>① 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p> <p>② 広域浜プラン緊急対策事業 (効率的な操業体制の確立支援)</p> <p>③ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>④ 水産業競争力強化施設整備事業</p> <p>⑤ 浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑥ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑦ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑧ 青年就業準備給付金</p> <p>⑨ 水産資源管理実践支援事業 (県) 及び浅海増殖事業 (市)</p> <p>⑩ カキ養殖海域水質等モニタリング事業 (市)</p> <p>⑪ 地方創生関連事業</p>

【上記記号】

◎：新しく行う取り組み事項

○：前年度から継続して行う取り組み事項

<p>取組内容</p>	<p><b>【1. 地域資源管理とその有効活用】</b></p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行い、その成果を共有することで、タコの資源管理を一層高度化する。【①】</p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、ヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、今後の地域資源管理とその有効活用のあり方を検討する。【①、⑦】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>○平成29年度から開始した県外市場への出荷体制を継続するとともに、漁協への集出荷体制のあり方を検証する。【①】</p> <p><b>【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】</b> (生食用養殖かき「くにさきOYSTER」)</p> <p>○引き続き、「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会」との広域的連携（販路拡大等）、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。【①】</p> <p>○引き続き、市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー（養殖体験＋カキ料理）」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。【①】</p> <p>(くにさき姫だこ)</p> <p>○引き続き、タコの最盛期である夏場において、高鮮度化による一層の付加価値向上を図るため、水産業競争力強化緊急整備事業等を活用した冷凍施設の機能強化等について検討する。【①、④】</p> <p>○引き続き、ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することで、タコのブランド化を推進するとともに、六次産業化による漁業収益の向上を図る。【①】</p> <p><b>【4. 輸出促進】</b></p> <p>○引き続き、「くにさきOYSTER」の近隣諸国へ輸出を行う。【①】</p> <p>○引き続き、「国東プロジェクト」において、海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）にの研究や、E U－HACCP の認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。【①、⑩】</p> <p><b>【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】</b> (共通（漁船漁業・養殖業）)</p> <p>○引き続き、競争力強化型機器等導入事業、広域浜プラン実証調査事業、浜の担い手漁船リース事業等により、収入向上・コスト削減の取組を推進する。【②、③、⑤、⑥】</p> <p>○引き続き、新規就業支援として、国東市が実施している「空き家バンク」や「マイホーム新築・購入応援奨励金」制度等を活用し、移住定住をサポートする。【⑩】</p> <p>○引き続き、新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、将来地域漁業の中核となる担い手の育成強化を図る。【⑧】</p>
-------------	--

	<p>(カキ養殖 (くにさきOYSTER))</p> <p>○引き続き、地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつながるよう支援する。【⑩】</p> <p>○引き続き、「モデル漁家」に対して養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資する取組を進める。【①、③、⑤、⑥】</p>
活用する支援措置等	<p>① 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p> <p>② 広域浜プラン緊急対策事業 (効率的な操業体制の確立支援)</p> <p>③ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>④ 水産業競争力強化施設整備事業</p> <p>⑤ 浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑥ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑦ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑧ 青年就業準備給付金</p> <p>⑨ 水産資源管理実践支援事業 (県) 及び浅海増殖事業 (市)</p> <p>⑩ カキ養殖海域水質等モニタリング事業 (市)</p> <p>⑪ 地方創生関連事業</p>

【上記記号】

◎ : 新しく行う取り組み事項

○ : 前年度から継続して行う取り組み事項

<p>取組内容</p>	<p><b>【1. 地域資源管理とその有効活用】</b></p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、「抱卵たこ壺の放流」等の実証試験・調査を行い、その成果を共有することで、タコの資源管理を一層高度化する。【①】</p> <p>○引き続き、漁協各支店が広域的に連携し、ヒジキ養殖や、藻類の増殖に係る試験等を行い、その成果を共有することで、今後の地域資源管理とその有効活用のあり方を検討する。【①、⑦】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>○平成29年度から開始した県外市場への出荷体制を継続するとともに、漁協への集出荷体制のあり方を検証する。【①】</p> <p><b>【2. 流通改善】</b></p> <p>◎漁協各支店が広域的に連携し、県外市場への出荷体制を見直す（運搬トラックの共同利用による集約化等）ことで、運搬コスト（手数料）を下げ、漁業者の所得向上を図るとともに、漁協への集出荷体制を強化する。</p> <p><b>【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】</b> （生食用養殖かき「くにさきOYSTER」）</p> <p>○引き続き、「地域おこし協力隊」の宣伝活動、「大分県かき類生産者協議会」との広域的連携（販路拡大等）、各種イベント等を通じて、ブランド化・販路拡大に取り組む。【①】</p> <p>○引き続き、市内の豊富な観光資源と組み合わせた「カキ養殖体験ツアー（養殖体験＋カキ料理）」を企画する等、地域活性化に向けた検討を行う。【①】</p> <p>（くにさき姫だこ）</p> <p>◎水産業競争力強化緊急整備事業等を活用し、製氷所の整備（H29）に加え、冷凍施設の機能強化を行うことで、タコの最盛期である夏場において高鮮度化による一層の付加価値向上を図りつつ、漁協への集出荷体制を強化する。【④】</p> <p>○引き続き、ふるさと納税制度を活用して、漁業者によるタコの加工品の販売を促進することで、タコのブランド化を推進するとともに、六次産業化による漁業収益の向上を図る。【①】</p> <p><b>【4. 輸出促進】</b></p> <p>○引き続き、「くにさきOYSTER」の近隣諸国へ輸出を行う。【①】</p> <p>○引き続き、「国東プロジェクト」において、海域管理体制（養殖海域モニタリング調査等）にの研究や、E U－HACCP の認証取得可能な施設整備の検討を進める等、世界最高級の品質保証に向けた取組を行い、海外販路を開拓し輸出の拡大に取り組む。【①、⑩】</p> <p><b>【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】</b> （共通（漁船漁業・養殖業））</p> <p>○引き続き、競争力強化型機器等導入事業、広域浜プラン実証調査事業、浜の担い手漁船リース事業等により、収入向上・コスト削減の取組を推進する。【②、③、⑤、⑥】</p> <p>○引き続き、新規就業支援として、国東市が実施している「空き家バンク」や「マイ</p>
-------------	---

	<p>ホーム新築・購入応援奨励金」制度等を活用し、移住定住をサポートする。【⑩】</p> <p>○引き続き、新規就業者等に対して、大分県漁業学校等の研修を実施することにより新規就業者の確保・育成を推進し、さらに青年部活動や各種研修会等を通じて、将来地域漁業の中核となる担い手の育成強化を図る。【⑧】</p> <p>(カキ養殖 (くにさきOYSTER))</p> <p>○引き続き、地域おこし協力隊制度等を活用し、都市部から新規就業者を確保し、任務終了後に漁業就業へつながるよう支援する。【⑩】</p> <p>○引き続き、「モデル漁家」に対して養殖・経営技術習得の支援を行うことにより、安定経営に資する取組を進める。【①、③、⑤、⑥】</p>
活用する支援措置等	<p>① 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p> <p>② 広域浜プラン緊急対策事業 (効率的な操業体制の確立支援)</p> <p>③ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>④ 水産業競争力強化施設整備事業</p> <p>⑤ 浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑥ 水産業競争力強化金融支援事業</p> <p>⑦ 水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>⑧ 青年就業準備給付金</p> <p>⑨ 水産資源管理実践支援事業 (県) 及び浅海増殖事業 (市)</p> <p>⑩ カキ養殖海域水質等モニタリング事業 (市)</p> <p>⑪ 地方創生関連事業</p>

【上記記号】

◎ : 新しく行う取り組み事項

○ : 前年度から継続して行う取り組み事項

#### (5) 関係機関との連携

##### 【1. 地域資源管理とその有効活用】

- ・大分県、国東市、漁協各支店等が連携のうえ、効果的な資源管理等を検討・実施する。

##### 【2. 流通改善】

- ・大分県、国東市、漁協本店・各支店が連携のうえ、検討・実施する。

##### 【3. 地域水産物のブランド化及び消費拡大】

- ・養殖カキ、タコについては、大分県、国東市、漁協各支店、民間企業等が連携のうえ、常設の地元産品販売施設（道の駅2カ所、里の駅2カ所、銀たちの郷（JF直営））や都市圏のアンテナショップ（福岡市天神）等と協力のうえ、推進する。

##### 【4. 輸出促進】

- ・「くにさきOYSTER」の輸出促進強化・促進を図るため、JETROや日本冷凍食品検査協会の支援を受けながら、水産庁、大分県、国東市、民間企業、漁協本店・各支店が連携のうえ、推進する。
- ・JETROや大日本水産会等が実施する各種イベントには、国東市特産水産物銘柄化推進協議会の支援を受けながら積極的に参加し、販路拡大を目指す。

##### 【5. 新規就業者及び中核的担い手の確保・育成】

- ・大分県、国東市、漁協本店・各支店が連携のうえ、推進する。

#### (6) 他産業との連携

##### (くにさきOYSTER)

- ・今後の養殖出荷量の拡大に合わせて地元商工会（飲食店）と出荷企業が連携のうえ、一部を市内に提供することにより、カキを核とした観光産業との連携を模索し、合わせて地元で開催される各種イベントに「国東市特産水産物銘柄化推進協議会」の支援を受けカキブースを出店する等して、養殖カキになじみの少ない市民に対しても認知度を上げていく取組みを行うことにより、交流人口の増加による漁村の活力の再生に取り組む。

##### (くにさき姫だこ)

- ・国東市商工会等と連携のうえ、各種加工品開発等を行い、観光客等へのお土産、定番名物料理として提供できるよう検討する。



#### 4 成果目標

##### (1) 成果目標の考え方

###### 【タコの生産額の増加】

- ・本プランでは、タコの資源管理を推進するとともにブランド力の一層の強化を図ることとしており、「くにさき姫だこ」の生産額の増加を成果目標とする。

###### 【養殖カキ（くにさきOYSTER）の生産量・輸出国数の増加】

- ・本プランでは、生食用養殖カキの高品質・安定生産の促進を図りつつ、更なるブランド化・販路拡大を推進し、生食を主流とする国への輸出に取り組むこととしており、「くにさきOYSTER」の生産量（個数）、輸出国数の増加を成果目標とする。

###### 【中核的漁業者の認定数】

- ・本プランでは、大分県漁業学校等を活用して新規就業者を確保・育成するとともに、漁業者の収入向上・コスト削減の取組みを推進し、中核的漁業者の確保・育成を図ることとしており、中核的漁業者の認定数を成果目標とする。

##### (2) 成果目標

タコの生産額	基準年	平成28年度： 96百万円
	目標年	平成32年度： 101百万円
養殖カキの生産量	基準年	平成27年度： 6万個
	目標年	平成32年度： 60万個
養殖カキの輸出国数	基準年	平成27年度： 0カ国
	目標年	平成32年度： 3カ国
中核的漁業者の認定数	基準年	平成27年度： 0人
	目標年	平成32年度： 20人

##### (3) 上記の算出方法及びその妥当性

###### 【タコの生産額の増加】

基準年：平成28年の生産額（最新値）とする。

目標年：資源管理及びブランド化等の取組みにより、基準年に対して5%増の成果目標とした。

###### 【養殖カキの生産量（個）の増加】

基準年：平成27年度の実生産量（最新値）とする。

目標年：平成27年度に養殖を開始したばかりであり、販売実績が乏しいため推測は困難であるが、養殖施設規模等を勘案して60万個を成果目標とした。

###### 【養殖カキの輸出国数】

基準年：平成27年度の実輸出国数（輸出実績なし）。

目標年：平成28年度から生食文化を主流とする香港やマカオへの輸出（試行）を開始し、現在、マレーシアやシンガポールへの輸出を目指しているところであり、輸出国数3カ国を成果目標とした。

【中核的漁業者の確保】

基準年：平成27年度の中核的漁業者の認定数。

目標年：全漁業者（正組合員194人）の1割程度である20人（1地区5人×4地区）を成果目標とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
①広域浜プラン実証調査（広域浜プラン緊急対策事業）	浜の活力広域浜プランに基づく実証的な取り組みを実施する。
②効率的な操業体制の確立支援（広域浜プラン緊急対策事業）	操業コスト削減のため、統一的な航行規制や船底状態等の改善を図る。
③競争力強化型機器等導入緊急対策事業	生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等を導入する。
④水産業競争力強化緊急施設整備事業	競争力強化のために必要となる施設を整備する。
⑤浜の担い手漁船リース緊急事業（水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業）	中古漁船又は新造漁船の導入を支援する。
⑥水産業競争力強化金融支援事業	漁船の建造・取得・改修、漁業用機器等の導入に係る負担軽減を図る（融資）。
⑦水産多面的機能発揮対策事業	藻場の保全のための活動（岩盤清掃、ウニ類の除去等）を実施する。
⑧青年就業準備給付金	新規就業者に対して漁業学校による研修・支援を行う。
⑨水産資源管理実践支援事業 浅海増殖事業	種苗放流に対して支援を行う。
⑩カキ養殖海域水質等モニタリング事業	NSSPに準拠している近隣諸国への殻付生ガキ輸出を目指し、海域管理体制構築に必要な養殖海域のモニタリングを実施する。
⑪地方創生関連事業	地域おこし協力隊制度や空き家バンク制度等、各種地域活性化に資する支援制度を活用し、新規就業者等の受入体制を整える。